vol.407
農政連情報誌

みどりの風

2023
12
令和5年

今月の表紙「自分で採ったかぶは美味しいぞ!」（撮影：田中 美帆 様）　第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

■令和5年度JA熊本県青壮年部大会が開催される
■木原稔衆議院議員が防衛大臣に、松村祥史参議院議員が国家公安委員長に就任
■藤木しんや活動報告
■参議院議員 藤木しんや氏コラム
■参議院議員 山田としお氏コラム
■地域農業のリーダー
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

国会議員の失言・放言は古今東西耳にする。時には国民を見下し、時には問題発言や攻撃的な言葉など、いつの時代にも噴出する。なぜ嫌われるとわかっていながら、他人の感情を逆なでする言葉を発してしまうのか。集会で軽口を叩いたり、ブラックジョークでその場の笑いを取ることが、政治家としての人気取りと勘違いしている節があるのではないだろうか。

有名な発言に吉田茂元首相の「無礼者、バカヤロウ」発言や池田勇人元首相の国会答弁で翌日の新聞見出しには「貧乏人は麦を食え」という言葉が躍った。

国民に目を向けて、国民の想いを常に考えていれば、こんな発言はでてこない。どこに目を向けているのだろう。

さて、今やパソコンを上手に使いこなせないと世間から取り残されてしまう。パソコンや携帯のメールをきちんと使いこなせることは、一人前の社会人の必須条件であろう。パソコンの電子メールが始まって、早20年が過ぎる。その後に携帯メールやLINEなど、より手軽に使える通信手段が次々と出現した。

LINEの活用が進んだ結果、特に若者の間で短文での返信が多くなっている。返信が早ければいいというものではない。相手が求める質問に、丁寧に回答することが大事である。誤字や変換ミス、やたらと漢字の多い文章、連絡先が入っていないもの、等々。

メールも相手のことを思い浮かべて送信ボタンを押したいものだ。

令和5年度JA熊本県青壮年部大会が開催される

熊本県農協青壮年部協議会は10月24日、熊本市のくまもと県民交流館パレアで「令和5年度JA熊本県青壮年部大会」を開催しました。

この大会は、地域農業リーダーであり重要な担い手であるJA青壮年部盟友自らが、将来を見通した自立農業経営の確立、明るく豊かな地域社会づくりを目指すために、相互研鑽を行い、青壮年部組織の活性化とさらなる発展を目的に毎年開催しています。

当日は、県下11地区の青壮年部盟友や関係者300人が出席しました。

開会にあたり、県青壮年部協議会の石本勝也委員長は、主催者挨拶で「コロナ禍により3年間青壮年部活動が自粛を余儀なくされることもあった。WEB会議やWEB配信などを利用し、新しい組織、新しい活動の形を試行錯誤しながら青壮年部活動を積み上げてきた。この経験は必ず次世代の組織活動の原動力になると確信している」と述べました。

▲主催者挨拶をする熊本県青壮年部協議会の石本勝也委員長

▲来賓で祝辞を述べるJA熊本中央会の宮本隆幸会長

来賓を代表して、JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「将来を担う皆様が将来にわたり夢と希望を持って農業経営に取り組めるよう、営農支援や農政運動への取り組みを進める。県下盟友の代表者が、今大会、九州大会、更には全国大会で優秀な成績を収められるよう期待する」と祝辞を述べました。

「盟友の主張発表大会」で最優秀賞を受賞したJA鹿本青年部の松田渓太さんは、「想いを言葉にする」と題し、不登校でコミュニケーションが苦手だったが、JAや青年部との交流を通じて仲間に助けられ、想いを言葉にすることの大切さを学んだと発表しました。

「組織活動実績発表」で最優秀賞を受賞したJAやつしろ青壮年部の松本祐毅さんは、「つながりを築く場所」と題し、支部の合併による組織再編や小学生を対象とした食育活動の取り組みを発表しました。

また、「1分間動画発表」ではJAくま青壮年部山江支部、「手づくり看板コンクール」ではJAかみましき青壮年部矢部支部がそれぞれ最優秀賞を受賞しました。

「盟友の主張」「組織活動実績」の最優秀賞と「1分間動画」の最優秀賞・優秀賞は、12月に鹿児島県で開催される九州沖縄地区青年大会、「手づくり看板コンクール」の受賞作品3点は全国コンクールに、それぞれ県代表として出場・出品されます。

▶「盟友の主張発表大会」で最優秀賞を受賞したJA鹿本青年部の松田渓太さん

▶「組織活動実績発表大会」で最優秀賞を受賞したJAやつしろ青壮年部の松本祐毅さん

【受賞者】

・盟友の主張発表
- 最優秀賞　松田渓太さん（鹿本）
- 優秀賞　池田栄輔さん（菊池）
- 優秀賞　愛甲和也さん（くま）

・組織活動実績発表
- 最優秀賞　松本祐毅さん（やつしろ）
- 優秀賞　西原郁弥さん（鹿本）

・手づくり看板コンクール
- 最優秀賞　かみましき青壮年部矢部支部
- 優秀賞　熊本市青壮年部飽田支部
- 優秀賞　くま青壮年部湯前支部

・1分間動画発表
- 最優秀賞　くま青壮年部山江支部
- 優秀賞　熊本うき青年部三角支部

木原稔衆議院議員が防衛大臣に、松村祥史参議院議員が国家公安委員長に就任

第2次岸田再改造内閣が9月13日に発足し、熊本県からは、熊本県農政連が推薦し当選した衆議院熊本1区の木原稔氏が防衛大臣に、参議院熊本選挙区の松村祥史氏が国家公安委員長に就任しました。

併せて、自民党の組織運動本部長に衆議院熊本4区の金子恭之氏が就きました。

なお、農林水産大臣には、長野県出身でこれまで自民党農林部会長などを歴任してきた宮下一郎衆議院議員が就任しました。

木原稔防衛大臣は「議員になった当初から高い意識で防衛政策に取り組んできた。独立国家として国土と国民主権を守ることにも努めたい」と述べました。

松村祥史国家公安委員長は、国土強靭化と防災担当相の兼務も決まり、「首都直下地震や南海トラフ巨大地震など、予見が難しい災害に備えなければならない。熊本地震の復旧復興に取り組んだ経験を活かしたい」と述べました。

県内から2名の県選出国会議員が同時に入閣するのは、1991年の野田毅経済企画庁長官と東家嘉幸国土庁長官が就任した時以来で、32年ぶりとなります。

▲岸田首相と新閣僚（東京新聞提供）

参議院議員

Fujiki Shinya activity report

藤木しんや

活動報告

農家の声を国政に！

4つのVision

① 生産現場からの声を国政に届け、実現します

② 食料安全保障の強化の実現を目指します

③ 中小・家族経営、中山間地農業への更なる理解と支援の拡充に取り組みます

④ 地域の拠り所であるJAの取組を後押しします

参議院議員2期目（平成28年7月初当選）

藤木しんやプロフィール

自由民主党農林部会長代理
参議院自由民主党副幹事長

【所属委員会(参議院)】
農林水産委員会
議院運営委員会

【これまでの主な役職】
農林水産大臣政務官（2期）
参議院自由民主党　副幹事長
自由民主党　農林部会　副部会長
参議院自由民主党　国対副委員長
東日本大震災復興特別委員会　理事

農家・農業の未来のため全力で頑張ります

JAグループ代表が岸田首相と面会

佐賀県豚熱発生による県知事面会

JA古川子実コーンの圃場を視察

農林合同会議で政務官退任の挨拶

JAグループ北海道による代表者要請

JAグループ富山国消国産イベントに参加

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの
永田町でも百姓宣言

第212回臨時国会開会

【政府経済対策と補正予算などについて】

10月20日に第212回臨時国会が開会いたしました。岸田首相は所信表明で、ガソリンと電気・ガス料金について、激変緩和措置を2024年春まで継続し、その後、激変緩和の幅を縮小することを表明しました。「農政の基本は現場に」という首相発言がございましたが、農業生産資材価格の高騰について、私自身も全国各地を伺う中で、様々なご意見を頂いております。日本農業新聞の調査によると、約7割の集落営農組織や農業法人が生産コスト上昇分を販売価格に転嫁出来ない、と回答しておりますが、農水省が策定を進める適正な価格形成に向けた法案について、来年の通常国会提出は困難である見通しが示されました。しかし、そのような状況下であるからこそ、引き続き、農業生産現場に対する支援の拡充が必要ではないでしょうか。

さて、今後、政府の「新たな総合経済対策」とその裏付けとなる令和5年度補正予算、令和6年度当初予算や品目別価格決定などの議論が進んで参ります。先日の自民党農林合同会議では、「産地パワーアップ事業について、老朽したカントリーエレベーターなど、JAの共同利用施設に対する補修や改修をしやすいよう、制度改正してほしい」と、皆さまから頂くご意見を、要求いたしました。

私自身、9月に農林水産大臣政務官を退任し、この秋は「自由民主党農林部会長代理」「参議院自由民主党副幹事長」「参議院議院運営委員会理事」などの新たな役職のもと、取組を進めて参ります。11月13日にはJA全中・全国農政連主催「JAグループ基本農政確立全国大会」が東京で開催されます。食料安全保障の強化に向けて、万全な政策確立と予算確保を行うためにも、JAグループの組織力を結集することが必要になります。我々の意思が反映された政策を勝ち取るため、引き続き国政の場において全力で取組を進めて参ります。

▲自民党農林合同会議の様子

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの
農政問題に斬り込む

2023年の猛暑を振り返って

今年の夏は本当に暑かった。東京都心では、真夏日が90日と、これまでの最高記録71日(2010年)をはるかに上回ってしまいました。

この暑さは、自然を相手とする農業の様々な分野に大きな影響をもたらしました。まず、水田農業つまりコメへの影響です。各地で猛暑による高温障害が発生し、乳白粒など白未熟粒の混入が増え、下位等級の発生が多くの産地で報告されています。9月末の状況をみると、東日本の主要産地では1等米比率が、昨年より軒並み1～3割低下しているほか、規格外も相当発生しています。とくに、高温障害と渇水が重なってしまった新潟県では、1等米比率が1割未満と、極めて厳しい状況だと聞いています。今年産米はまだ収穫途中ですので、今後の検査結果を注視しなければなりませんが、予期せぬ天候被害にあってしまった生産現場への万全な支援が必要です。

野菜類にも大きな影響が出ています。トマトは高温障害で「花落ち」し、実が着かないため、収量が激減し、スーパー等小売り段階では平年の倍近い値段が続いています。シュンギク、ネギ、ダイコンなどの鍋物食材も、生育不良等で産地リレーが途切れて端境が発生し品薄となっています。また、果樹でも、温州みかんで浮皮、日焼け果や着色不良等の影響が報告されているほか、ぶどうでも着色不良や障害果が例年より多かったそうです。さらに、りんごでは、日焼け果の発生が多く品薄となっているほか、従来から地球温暖化の影響として着色不良や酸含量の減少が指摘されてきました。

いま、みどりの食料システム戦略の実現に向けて、各産地において化学農薬・肥料の低減等の環境にやさしい栽培体系への転換がすすめられていますが、同時に、地球温暖化等の気候変動に対応した品種改良等をすすめていく必要があります。

▲富山県氷見市長と

地域農業のリーダー

～JAやつしろ青壮年部活動報告～

JAやつしろ青壮年部(部長：橋本　修)は6支部(郡築、昭和、松高、千丁、鏡、竜北)盟友375名で、地域農業の担い手として地域に密着した地域に愛される青壮年部を構築するため、様々な活動を行っています。

特に「食育活動」では、地元の子供たちにやつしろ特産のトマトの収穫体験を実施し、トマトの消費拡大、認知度向上・食の安全・安心・大切さなどを伝えています。

このほか、第56回くま川祭り大人みこしへの参加等、地域農業の担い手として盟友一同一丸となって青壮年部活動に積極的に取組んでいます。

トマトの収穫体験（学習会～収穫体験～試食会）

地元の園児・小学生を対象にトマトの収穫体験を行っています。トマトの学習会を行い、収穫体験、収穫したトマトを使用したハヤシライス作りと試食会等、全国一の生産量を誇るやつしろのトマトを実際に勉強し、収穫し、食べる所まで関連付ける事で、次世代を担う子供たちに、もっと身近に農業を感じて欲しい、という思いで盟友一同積極的に活動を行っています。

▶トマト収穫の様子

▲収穫したトマトを使ったハヤシライス作り

園児・小学生との農業体験学習

青壮年部各支部による小学生や園児との農業体験活動を行っています。種まき、田植えから収穫までを行うことで、農業を身近に感じてくれ、笑顔で泥だらけになりながら田植えをする姿を見て、参加した子供達の中で農業に興味を持つきっかけになって欲しいという気持ちが一段と強くなりました。

▲田植えを行う小学生

▲稲刈りの様子

地域の行事への積極的な参加

水田深耕畦立競技大会等、地域の行事等にも積極的に参加しています。特に毎年夏に開催される「くま川祭り」に大人みこしとして参加するのは恒例です。お揃いの法被を着た盟友達が力水を掛けられながら担ぐ神輿は勇壮で迫力があります。一度「くま川祭り」へお越し頂き、JAやつしろ青壮年部の大人みこしを是非ご覧下さい。

▲JAやつしろふれあいフェスタ
水田深耕畦立競技大会の様子

▲くま川祭り大人みこしの様子

JA熊本県青壮年部大会

JA熊本県青壮年部大会では、毎年盟友の主張及び組織活動実績発表等、代表を選抜し参加しています。昨年度は、組織活動実績発表において、JAやつしろ竜北支部の宮崎修太さんが最優秀賞を受賞し、九州大会へ出場しました。

▲盟友の主張発表の様子

▲組織活動実績発表の部にて
最優秀賞を受賞した宮崎修太さん(右)

JA中央会

「県域構想で意見交換」JA熊本中央会、熊本県各連合会役員らと熊本県女性協

JA熊本県女性組織協議会は10月11日、熊本市内のホテルで県中央会・連合会常勤役員らとの意見交換会を開きました。

JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「JAの事業・活動を活性化するためにも皆さまの考えや要望をお聞きし、全体運営に役立てたい」とあいさつ。県女性協からは太田桂子会長をはじめ女性協理事、中央会・連合会の役員ら31名が参加しました。

意見交換では県域JA構想における女性組織の在り方や、燃油高騰対策など農家経営支援に関する要望、エーコープマーク商品のPRについてなど多岐にわたって質問や意見が出ました。県女性協の牛嶋和代理事は「JA事業を農業に興味を示す人に幅広くPRしてほしい。女性ならではの視点で意見を発信したい」と話しました。また、岩見利美副会長は「女性向けの学習会や意見交換の機会を設けて欲しい」と要望。質問には各連合会が丁寧に回答し、意見交換会は和やかな雰囲気で進行しました。

▲各出席者からの質問に答える宮本会長

▲各連合会役員と県女性協の意見交換の様子

JA経済連

変化に対応する新たな挑戦 令和5年産秋冬野菜・果実出荷大会を開催

～オール熊本で販売目標金額370億円目指す～

JA熊本経済連は10月10日、熊本市で令和5年産秋冬野菜・果実出荷大会を開催しました。生産者、JA、熊本県、全国の取引市場などからおよそ270人が出席。産地と市場が一体となり販売目標金額370億円（野菜類260億円、果実類110億円）の達成を誓いました。全国に向け、熊本県産秋冬野菜と果実の出荷が始まります。

同連は基本方針に①持続可能な産地体制、②環境変化に対応する円滑な販売、③産地一体となった販促支援――の3つを掲げ、消費者に支持される「熊本ブランド」の確立に向けて取り組みます。同連の丁道夫会長はあいさつで「安定供給に向けた強固な生産、出荷体制の整備とおいしい野菜、果実の供給に努める」と決意を述べました。

令和5年産（10月～2月）の生産計画は、野菜全般の作付面積2437ヘクタール（前年比99％）、出荷数量7万4398トン（同103％）を見込みます。主要品目では、トマトは作付面積の減少傾向が続きますが、ミニトマトとナスは微増。瓜類では138ヘクタール（同98％）、2931トン（同101％）を計画し、メロンとスイカの作付面積は微減。イチゴ（10月～6月）は164ヘクタール（同99％）、7027トン（同104％）を見込み、作付面積は微減となっていますが、熊本県オリジナル品種の「ゆうべに」が全体の約56％と全体に占める割合が増加しています。

▲熱心に話を聞く市場・JA関係者

▲挨拶をする丁道夫会長

JA共済連

令和5年度 JA共済 全国小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール 熊本県大会入賞者決定！

～今年も素晴らしい作品が多く寄せられました～

令和5年度JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクールは、今年で書道の部が67回目、交通安全ポスターの部が52回目を迎え、熊本県下の小・中学生のみなさんから、書道の部で2３、１４２点、ポスターの部で1、４９９点の素晴らしい作品が寄せられました。

9月27日に行われた審査会において、左記の3名が最高位の熊本県知事賞に輝きました。また、金賞（熊本県知事賞を含む）作品27点は11月に行われる全国大会に出展します。熊本県の作品が全国大会においても入賞されるよう願っています。そして、来年も素敵な作品をお待ちしております。

熊本県知事賞【半紙の部】

▶八代市立太田郷小学校4年 澤田　明依さん

熊本県知事賞【交通安全ポスターの部】

▶大津町立大津北中学校2年 農　泰智朗さん

熊本県知事賞【条幅の部】

▶熊本市立城北小学校3年　松永　あかりさん

JA厚生連

冷え性について

【冷え性とは】

手足や腰回りなど身体の一部が冷たいと感じることはないですか？この状態を「冷え性」と言います。

血流が悪くなることで身体全体に必要な酸素や栄養素が行き届かなくなり、色々な不調が現れやすくなりますが、その中でもよく見られる不調の一つです。

【冷え性の原因は】

血行が悪くなることが原因で、その要因として、以下の原因が考えられます。

①筋力の低下
運動不足が続いてしまうと筋力が低下し、血行が悪化します。

②基礎代謝の低下
体温が低くなり、冷え症が起きやすくなります。

③喫煙習慣
血管が急に収縮することが多くなります。

④ストレス
緊張すると血行不良が起きやすくなります。

⑤偏った食生活
栄養バランスが偏った食生活が続いてしまうと血の巡りが悪くなります。

【冷え性の予防策】

日常生活で取り入れることができる予防策として

①お風呂に浸かる
できれば毎日、ぬるめのお湯に長く浸かり身体を温めましょう。

②運動
普段歩く時に歩く速度を上げたり、距離を少しだけ増やしたりすることで運動になり、血行改善と基礎代謝アップにつながります。

③ストレッチ
こわばった筋肉をほぐすことで血行改善につながります。また夜寝る前にストレッチをすることで安眠にもつながり、効果的です。

④飲食
生姜やニンニクなど身体を温めやすいと言われている食べ物を摂取しましょう。なお、冷たい飲み物は身体を冷やしてしまうため、できるだけ温かいものや常温の飲み物をおすすめします。

これらのことを、普段の生活に取り入れて冷え性の予防・改善につなげていきましょう。

あとがき

先日、新聞広告にサザンオールスターズの左右一面広告が出ていました。出身地の茅ヶ崎ライブ開催とデビュー45周年の告知でした。メンバー5人も既に66歳から68歳になりました。バンドは青山学院大学時代に結成され、途中1度だけ5年間の活動休止がありましたが、解散もせず45年も活動を続けていることには驚かされます。その理由として5人のメンバー同士や関係者が人間関係を大切にしていることが大きいと言われています。

サザンオールスターズのファンは10代から70代まで幅広い年齢層が存在しており、サザンの楽曲に励まされ、心の支えとしている人も多いようです。皆さんは、どんな曲が好きですか。私は若い頃は「チャコの海岸物語」が、その後は「TSUNAMI」をカラオケで歌っていました。

ところで、この左右一面新聞広告の値段は4000万〜8000万といわれています。全国5大紙に掲載されていたことから、いくらになったことやら。

「大好きなお芋」

撮影：尾前　健太 様

第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

発行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中央区南千反畑町2-3　電話 096-328-1284
編集責任者／中村　隆宏
●発行日／令和5年11月15日・毎月1回15日発行
●定価／1部50円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）